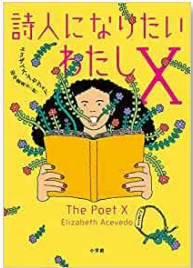


紙版 ハコブネ×ブックス vol.35

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



詩人になりたいわたし X

The Poet X.

作者 エリザベス・アセヴェド
翻訳者 田中亜希子
出版社 小学館
発行 2021年1月
ISBN 978-4092905887

review



ニューヨークのハーレムに暮らすシオマラは十五歳の女の子。ドミニカ人であるママ(母親)は厳格なキリスト教徒で、娘を厳しくしつけようとしませんが、シオマラは自分が従順で信心深い子ではないことをわかっていました。男の子に興味だつた。自由に行動したい。シオマラがツインと呼ぶふたごの兄エグゼイヴィアは飛び級をするほどの天才児。兄のように優秀ではなく、両親の期待に応えられない自分に煩悶しながら、もつと自分を表現したいと思うシオマラ。そんな気持ちに彼女がノットに詩として綴っていきます。優秀なツインも自分がゲイであることで母親を傷つけることを恐れていました。両親やツインにシオマラが抱く複雑な想いが、豊かな表現で綴られます。詩を作り、表現することで自分の世界を広げていく励ましに満ちた物語です。



バディ たいせつな相棒

Buddy.

作者 V・M・ジョーンズ
翻訳者 田中亜希子
出版社 PHP 研究所
発行 2008年1月
ISBN 978-4569687582

review



もうすぐ十三歳になる少年ジョシュは、成績優秀でスポーツも得意。仲の良い仲間が何人もいますが、自分には親友はいないと思っていました。誰にも本当のこと言えない心の秘密があるからです。ジョシュにはリハビリ施設で暮らすふたごの兄弟、ジェイコブがいました。七年前の事故で脳に障がいを負い、自由に身体を動かさず言葉も十分に話せないまま、ニコニコと笑うだけだけれど、大切なバディ(相棒)であるジェイコブ。それでもジョシュはその存在が知られないように隠していました。人がジェイコブをどう見るか悲観的に考えてしまう。そんな人の目を気にしてばかりの自分を乗り越えるために、ジョシュはトライアスロン大会に出場します。バディを支え、バディに支えられて力強く成長していく少年の姿と、その感極まるゴールを見守ることができました。

特集

ふたごなる？
どうなる？



荻寺町に住む十二歳のふたごの姉妹、アイとミイが巻き込まれたミステリアスな事件。戦争の時代の名残りが潜むこの街で、優秀な少年サムとアイは調査を開始します。男の子みたいなアイが女の子らしいミイに抱く複雑な気持ちなど、主人公がふたごならではの物語が描き出す魅力的な世界がここにあります。



アイとサムの街 (角野栄子) ポプラ社 1989年

特集

ふたごならどうなる？



おちやめなふたご イーニッド・ブライトン 田中亜希子 訳 ポプラ社 2022年12月

名作『おちやめなふたご』が新訳新装で再刊されました。ふたごの姉妹、イザベルとパット、そして寄宿学校セントクレアズ学院の仲間たちの楽しい日々を描く物語です。ふたごは絶対的な味方であり、どんな逆境でもお互い支え合える心強い存在。本作は多くの読者にふたごへの憧れを抱かせてきました。物語が描くふたごたちは、かならずしもそっくりではなく、性格や好みが違うこともあります。それでも、主人公がふたごというだけで、その世界は彩られ、どんなドラマが始まるのかと期待してしまうものです。それぞれの物語を描くふたごたちを、是非、読みくらべてください。

ブレイメン通りのふたご

作者 蔭内明子
出版社 フレーベル館
発行 2022年2月
ISBN 978-4577050309

review



ブレイメン通りにある甘味処「さるも木からすべる」には、店主の園子さんの孫娘である小学五年生のふたご、マキ(横)とカツラ(桂)がよく出入りしています。性格や得意なことは違うものの心が通じている二人。ある日、この店で近所に引越してきたおばあさんたちと知り合います。まりあ、と、えりあとも乗る二人は、自分たちもふたごだと自己紹介します。親しくなったマキとカツラは彼女たちが住むアパートにも招かれます。おばあさんたちはどこか怪しく、本当はふたごではないのでは？とカツラは疑いをもちます。一方、おばあさんたちもマキとカツラがどこか訳ありなことを感じはじめます。やがて物語は、二組のふたごの秘密を詳らかにします。子とも大人との心の中に閉じ込めていたものが共鳴して、人生の儚さ、だからこそ慈しむべきものが見えてきます。

ライブラリー・ツインズ

ようこそ月島大学図書館へ

作者 日野祐希
出版社 アリス館
発行 2021年8月
ISBN 978-4752009788

review

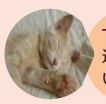


月島大学附属中学校に通う三年生の女子、菜織は、一学期の成績が悪く、附属高校進学の見切りライン以下だと宣告されます。お気楽で、お調子者の菜織もさすがに落ち込みますが、課外活動のプラス点で推薦入学生枠に入れれば内部進学が可能になるという救済措置で、月島大学図書館でボランティア活動することになります。成績優秀なふたごの弟、健史も目付役でつきあわされ、この夏休み二人で月島大学図書館へと通うことに。与えられた課題は、図書館の企画展示の企画です。菜織は自分の力不足に悩みながらも努力を重ね、パワー全開で躍動し、冷静沈着な弟の健史の心にも静かに兆していくものがあります。図書館という場所、印刷や製本、装幀など本づくりの魅力、そこに携わる人たちの心意気など、中学生が新しい世界に目を見開いていく姿が清々しい一冊です。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.35

2023年2月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter 連携しています。

@tomostretch